



11月9日は
119番の日

119番通報のポイント

大切なのは消防車・救急車が向かう住所！

詳しくは
こちらから



119番の日は、消防に対する正しい理解と認識を深め、地域ぐるみの防災体制の確立に資することを目的として定められました。令和6年中の119番通報は1,095,531件で、携帯電話やスマートフォンからの通報が半分以上を占めています。携帯電話・スマートフォンによる通報は、消防車・救急車が向かう正確な住所が、GPSなどの位置情報からでは確認できない場合があります。消防車・救急車が迅速に正確な住所へ向かうために、119番通報する際は、通報を受けた消防職員の指示に従い、以下のポイントを参考にお答えください。

火災の場合

POINT 消防車が向かう正確な住所

(例)千代田区大手町一丁目3番5号です。

POINT 何が燃えているか？

(例)リビングのストーブが燃えています。

つながりにくい場合

●つながるまで電話を切らない

119番通報をされた際、つながりにくい場合がありますが、電話を一度切ってしまうと、つながる順番が最後になる可能性があります。東京消防庁から電話を切断することはありませんので、つながるまで電話を切らないでください。

詳しくは
こちらから



●消防署・消防出張所に通報する

住所がわからない場合

●目標物を探す



▲目標となる店舗や建物



交通機関の
駅、停留所



▲住所が書いて
ある自動販売機

ここの住所は
〇〇区〇〇町
1-2-3

●他にも外道路(〇〇通り、□□街道)、交差点や公園・橋などの公共施設名、街区表示板、お店のレシートなどから住所がわかる場合があります。

救急の場合

POINT 救急車が向かう正確な住所

(例)千代田区大手町一丁目3番5号
〇〇マンション〇号室です。

POINT 誰がどんな症状か？

(例)父が突然倒れて、意識がありません。



POINT 名前や連絡先を伝える

(例)名前は〇〇〇〇です。
電話番号は000-0000-0000です。

冬は「転倒による怪我」の救急要請が増加します！

転倒により怪我をして救急搬送されている方は、毎月約7,000人います。気温が低下する10月以降は手足の動きが鈍くなるため、「転倒による怪我」がさらに増加し、12月には10,000人近くの方が救急搬送されています。

日常生活での
高齢者の事故を
防ぐために



発生の傾向

- 全体のうち7割が65歳以上
- 場所は「屋内(居住場所)」が多い。
- 原因は、普段気に留めない家の中の小さな段差やカーペットなど



ためらわずに救急車を呼ぶべき症状

突然の激しい頭痛、ろれつがまわりにくい、けいれんがとまらないなど、緊急性があると判断した場合は、ためらわずに救急車を呼んでください。

ためらわずに救急車を
呼んでほしい症状



「ころぶ」事故を防ぐ心得

- 立ち上がるときは、近くのものにつかまる。
- 着替えや靴下を履くときは椅子に座る。
- 意識して足やつま先をあけて歩く。



救急車を呼ぶか、病院に行くか迷ったら…

ネットの「東京版救急受診ガイド」で緊急性を判断するか、電話で「東京消防庁救急相談センター『#7119』」に相談してください。

「Live119」で 応急手当のアドバイス

詳しくは
こちらから



現場と映像を共有する「Live119」

通信指令員が、通報者の撮影しているライブ映像を確認しながら応急手当のアドバイスを行います。

救急車をお願いします。
応急手当の方法が
分かりません！



映像通報を使い、
応急手当の方法を
お伝えします。

通報者は東京消防庁からスマートフォンに送られてくるショートメールにアクセスするだけで、簡単に映像を共有することができます。

※事前登録の必要はありません。

東京消防庁 緊急ネット通報

音声(肉声)による119番通報が困難な方が、携帯電話やスマートフォンのウェブ機能を利用して緊急通報を行い、消防車や救急車を要請することができるものです。

※ご利用には、事前登録が必要です。

登録は
こちらから



119番ファクシミリ通報

詳しくは
こちらから



ファックスから「119」をダイヤルし、送信することで緊急通報を行うものです。

※あわせてファックス通報ができるよう、普段から通報用紙等に必要事項(住所、氏名、年齢)をあらかじめ記入し、準備しておくことが大切です。

※事前登録等は必要ありません。 ※どなたでもご利用いただけます。